

「普通話」・「国語」・「華語」

——香港を中心として——

横 山 宏

普通話・国語・華語

現在、日本で「中国語」とよばれていることばは、正確には「漢語」とよばなければならない。なぜなら、中国には漢民族をはじめとして54にもものぼる少数民族が存在し、⁽¹⁾ それぞれのことばをもっているため、漢民族の用いることばを「中国語」とよぶのは当を得ないからである。

しかし、その「漢語」とよばれる漢民族のことばのなかにも、たとえば福建語とか、広東語とか多くの方言が存在し、⁽²⁾ 漢民族相互のあいだにおいても意志の疎通ができないほどであった。その程度は「もっとも革新的な北京方言（官話音系）と、もっとも保守的な厦門（アモイ）方言（閩音系）とでは、英語とドイツ語以上にかけ離れている」⁽³⁾ といわれるほどである。共通の言語手段が欠如するとき、国家の統一、行政の能率にも大きなマイナスをあたえることはいうまでもない。

そのため、中国においては、語音、語彙、語法などの面で複雑さをもつこの方言を数多くかかえた「漢語」を共通語とすることばの均質化への努力が清末以来すすめられてきた。その過程を略述してみよう。

1911年、清朝政府は「中央教育会議」を開催し国語統一の具体策を練ったが、同年10月に起った辛亥革命による清朝崩壊により不発に終わった。その後、1913年2月、中華民国政府教育部は「読音統一会」を設立、国語統一に着手し、同年「注音字母」を制定して、1918年、正式に公布した。1917年におこった言文

一致を提唱する文学革命は、さらに1919年の五四運動へと発展し、翌1920年1月、教育部は全国の国民学校に「まず1、2年クラスの国文を国語に改めること」を訓令した。

1926年、国語統一籌備会は「国語ローマ字」を発表、1928年に正式公布した。この「国語ローマ字」の特徴は、注音字母と異なってローマ字を用い、そのうえ、声調符号を別に付することなく、綴り字に組みこんで示すことにあった。しかし、これはローマ字の綴りが長くなるため一般には煩瑣なものと受けとられ、あまり歓迎されなかった。

1930年「注音字母」は「注音符號」と改められ、これの普及による国語統一が試みられたが、戦火のため挫折せざるをえなかった。しかしこの時期の国語運動は、第2次世界大戦後に至っても、台湾、香港などにおいて「国語」ということばとして、また、東南アジアの一部では「華語」として残っている。

一方、1920年代末から瞿秋白らによってラテン化新文字の研究がすすめられていた。これは、漢字を全く用いずラテン化文字によって中国語を表記するものであり、はじめは、ソビエト領内に在住する中国人の文盲教育を目標とした。1931年、ウラジオストークで開催された中国新文字第1次代表大会において、この新文字に関する諸原則が制定され、その後、延安時代には広く普及した。解放後も、しばらくこのラテン化新文字が使用されたが、前述のように、ソビエト領内の中国人の文盲教育を目標としてつくられたものであったため、それら出稼ぎ中国人の多くが山東省出身であったところから、このラテン化新文字は山東方言に偏しているという欠点を持っていた。

1951年、中国文字改革研究委員会設置。1955年、漢字簡化方案草案発表、全国文字改革会議、ローマ字採用を決定、「普通話」採用決定。1956年、漢字簡化方案公布、漢語拼音方案草案発表。1957年、漢語拼音方案公布。1964年、簡化字総表、印刷用漢字字形表発表。

以上のように着々とすすめられた文字改革によって新らしくローマ字と簡体

字が登場した。これらを基礎に制定された「普通話」を漢民族共通のことばとすることが決定され、その普及がはかられた。「普通話」とは現代北京語の発音を標準音とし、北方方言を基礎語彙とし、典型的な現代白話文による作品を語法の規範とするものである。これに対して、さきにふれた「国語」は、北京方言を基礎としている点に注意しなければならない。

つぎに、「普通話」と「国語」の具体的な差をあげてみよう。まず発音についていえば、「普通話」は審音委員会によって決定されるが、その原則は、字の読音が北京語のなかで普通に用いられているならば、北京語音の一般の発展法則に合致しないものでも採用されるが、同時にその音が北方方言のなかで広く用いられているかどうかを考慮しなければならない⁽⁴⁾ となっている。たとえば、『国語辞典』においては“zhàn”とされている「暫」は、審音委員会による『普通話异読詞三次审音总表初稿』(1965年1月)には“zàn”となっている。一方、国語は北京方言を基準とするとはいえ、児化(花 huā を huār とする)がなく、また、軽声を用いない(東と西か、品物か区別がつかない dōngxī となる)。また、語彙の面では、「普通話」にはこれまで文学作品などに用いられていた南方語(たとえば“犒 gáo”“垃圾 lājī”など)が多く採用されている。こうして、現在では、中国各地においてこの「普通話」が使用されており、これまでのように意志の疏通に困難をおぼえるほどの地域差は基本的に解消されている。

一方、東南アジア諸国に居住する主として中国の南方方言地域出身者たちは、どのような言語を用いているのであろうか。まず、各国で総人口に占める中国系住民⁽⁵⁾の数、出身地別などをみてみよう。

シンガポールの場合人口は200万余であるが、多民族国家であるため表Ⅰにみるように多くの民族から構成されている。総人口のうち76%にもおよぶ中国系住民の出身地を追ってみると表Ⅱのようになる。この表にみられるように、東南アジアに居住する中国系住民の出身地は中国南部に集中している。

マレーシアの例をあげると、人口約1,050,000人のうち約42%は中国系であ

表Ⅰ シンガポールの出身国別
人口構成 (1971年6月末推定)

出身国	人
中国人	1,606,600
マレーシア人	317,300
インド人	147,500
パキスタン人	
セイロン人	
その他	39,000

出典 Yearbook of Statistics
Singapore 1971/1972. p.12

表Ⅱ シンガポール華人
出身地別表

出身地	%
福建	40
潮州	22
広東	19
海南島	7
客家	6
その他	6

出典 Papineau's Guide to
Singapore and Spotlight on
Malasia, 1972. Feb. p. 26

る。西マレーシアでは客家族出身が多く、東マレーシア（サラワク州、サバ州）では福建省出身が多いといわれる。⁽⁶⁾

シンガポールにおける国語はマラヤ語であるが、表Ⅰに見るように多民族国家であるため、公用語はマラヤ語、英語、中国語、タミール語の四ヶ国語を用いている。⁽⁷⁾ ここでいう中国語は現地中国系住民のあいだでは「華語」とよばれている。その「華語」とは福建語でも、広東語でもなく、共通語である。これは出身地の相違から来る言語上の困難解消のために生まれた言葉で、台湾や香港では「国語」とよばれている。

マレーシアにおいては、1971年3月の憲法改正により、公用語をマラヤ語と定め、すべての公共機関ではマラヤ語を使用しなければならないとした。なお、その他のことば、たとえば、中国語やタミール語は日常の生活においては使うことは妨げられていない。⁽⁸⁾

インドネシアに居住する中国系住民は350万人といわれ、その出身地は福建省が55%、広東省が45%といわれる。⁽⁹⁾ しかし、公用語はいうまでもなくインドネシア語である。古い統計であるが、1955年に刊行された資料によれば、私立の中国語の学校は59校あり、教員458名、生徒数16,672名と報告されている。⁽¹⁰⁾

タイにおいては、国府側の発表では中国系住民は3,799,000人、出生地主義を

とるタイ側の発表では44万人、公用語がタイ語であることはいうまでもない。⁴⁴⁾

これらインドネシア、タイなどの中国系住民のあいだでも公用語は別として、中国語が用いられている。このことばはシンガポールで用いられているのと同じ共通語であり、1920～30年代の国語運動時代にその普及が提唱された共通語の影響か、それとも現在中華人民共和国で普及されつつある「普通話」の影響と考えるべきか、詳細には分らないが、興味のあるところである。

香港におけることば

現在、中国での「普通話」の普及は目ざましいものがあり、中国のどこを訪れても「普通話」でお互いに意志を通じあえるようになってきていることはさきにふれた。北京から放送される中央人民放送局の使用言語は「普通話」である。現在の中国においてこうした言語統一がその社会主義建設にも大きく役立っていることは論ずるまでもない。

この中国から深圳河をへだてるとはいえイギリス領植民地である香港のことばについてふれてみたい。

香港の面積は島嶼部をふくめ1,013平方キロメートル、人口は1971年調査によれば406万人余である。⁴⁵⁾ここを訪れた多くの人々は、英領であり、公用語が英語であるための先入観念からか英語が日常使用されているとの錯覚にとらわれるが、実際の英語使用者数は人口の4パーセントの16万人程度であるとされている。そのほかの圧倒的多数の人びとは当然のことながら広東語を用いているのである。英語が通じるのは香港島のごく一部と九龍半島の最南端の繁華街である尖沙咀の一带にすぎず、それに隣接する油蔴地地域に足をふみ入れると英語は全く通じない。これまで、ここに住む中国人のあいだには、シンガポールやマレーシアの中国系住民が共通語を必要としたような現象はほとんど現れなかった。その理由は、香港は深圳河で人為的に境界線が引かれているが、地理的にも、言語的にも広東省の一部といえるため、使用されることばは次表に

表 III 香港における日常使用言語別人口

	61年調査（5才以上）				1966年調査（全人口を対象とする）			
	男	女	合 計		男	女	合 計	
英 語	18,520	13,304	31,824	1.21	19,080	18,320	37,400	1.01
広 東 語	1,067,828	1,008,382	2,076,210	78.98	1,538,290	1,473,270	3,011,560	81.20
客 家 語	67,231	61,201	128,432	4.89	61,900	61,490	123,390	3.33
鶴 佬 語	85,571	78,966	164,537	6.26	150,250	149,230	299,480	8.07
四 邑 語	50,193	64,291	114,484	4.35	49,750	63,230	112,980	3.05
上 海 語	35,896	33,627	69,523	2.64	50,340	53,620	103,960	2.80
国 語	14,733	11,288	26,021	0.99				
東アジア 語	5,178	3,049	8,227	0.31	10,110	7,460	17,570	0.47
ポルトガ ル語	459	418	877	0.03				
そ の 他	3,698	3,527	7,225	0.28	1,430	2,580	2,580	0.07
聾 啞 者	773	809	1,582	0.06				
	1,350,080	1,278,862	2,628,942	100.0	1,880,870	1,828,050	3,708,920	100.0

“Hong Kong Statistics 1947~1967 Census & Statistics Department, Hong Kong 1969. p. 23

示すとおり、広東語が支配的である。また、ここに住む人びとの郷党意識はきわめて強いといわれている。そのためか、香港の公用語はすでにふれた通り英語であるが、多くの中国人は英語とはほとんど縁のない生活を送っている。しかし、ここで用いられる広東語を普通語と比較してみると、外来語が多いことに気がつく。土地柄止むをえないことであるが、中国語としては特殊なことといわなければならない。⁴³⁾

いくらか例をあげてみよう。

名 称	普 通 語	広 東 語
父	爸 爸 [bàba]	爹 哋 [de ¹ di ³]
母	妈 妈 [māma]	媽 咪 [ma ¹ mi ³]
赤ちゃん	嬰 儿 [yīngr]	比 啤 [bi ⁴ bi ¹⁰]
タクシー	出租汽车 [chūzūqìchē]	的 士 [dik ⁷ si ³]

バス	公共汽车 [gōnggòngqìchē]	巴士 [ba ¹⁰ si ²]
トースト	烤面包 [kǎo miànbāo]	多士 [do ¹⁰ si ²]
切手	邮票 [yóupiào]	士擔 [sy ⁶ dam ¹⁰]
さようなら	再見 [zàijiàn]	古拜 [gut ⁷ bai ¹⁰]

以上の若干の例から、普通話が外国から来たものには意識の姿勢をとりつづけているのにたいし、広東語では音訳をとる傾向があることが推測できる。日常生活において、たとえば郵便局で切手を購入しようというとき、「普通話」の“邮票 yóupiào”を用いるより、“stamp”と言った方が容易に通じてしまう。だが、発音した本人は英語のつもりでも、相手は広東語として聞いているのかもしれない。

また、日常生活にきわめて必要なビルの名前や地名などの固有名詞は、中国名と英語名の2本立てであるため、他省人や外国人で広東語が不自由な人でも英語を媒体としてほぼ正確に意志を通じることが可能である。以上のような状況から、香港における共通語への必要度はあまり高くなかったとみてよいであろう。

つぎに、広東語の言語的特徴を共通語と比較してみよう。まず、広東語の一例をあげてみることにする。

嫂：喂，而家几点鐘啦？

刘：（看表）五点半啦。（仍然看書）

嫂：点解歪明仔跟陳先生去到而家重未返呢？我睇佢地都怕响外边食左飯啦。

刘：（不理，依然看报）

嫂：点解陳先生到而家重未搵到野做嘅？

刘：而家搵野做都几艰难，佢以前做过的对人民唔住嘅事，都几論尽㗎。

嫂：点解呀？佢呢个人都唔錯㗎！旧时虽然做过特务，坐过監，但佢已经反省坦白过咯，放出来就有乜事㗎啦，重有乜野論尽呀！

袁雄仪，潘超（西江地委文工团）『血的教訓』（独幕剧）（原载华南文工

团的文工报第2卷5期)

この戯曲では、これまで中国語を学んだ読者でも、多くの方は歯が立たないのではなかろうか。この例は活字で表わしたものだが、戯曲であるため、当然のことながら語音により語られるものである。

ここで、広東語の語音、語彙、語法についてふれてみよう。

語音は「普通話」に類似しているものがあるが、大きく異なるものは声調である。1955年、「普通話」普及運動が開始されたとき、「普通話」の学習方法について方言地域の人たちのための学習書がかなり現れたが、それらの本の中で最も多くのスペースがさかれているのは語音の部である。「普通話」と方言との語音の特色をあげ、相互の類推法を示しているものがある。⁴⁴ それらの要約すべき結論は「普通話には韻頭はきわめて多いが、広東語には非常に少ない（厳格に言えば、広州およびそのほかの白話地域では韻頭は全く存在していない）」⁴⁵ のである。

ことばの第2の要素は語彙である。うえにあげた戯曲の例をみると語彙の違いが大きいことがわかる。つぎに、この戯曲の広東語に普通話の解説をつけてみよう。

而家	現在
点解	为什么
亚明仔	明（人名）
重	还，尚
返	回
睇	看
佢地	他们
左	了，掉
搵	找
野	東西

嘅	的
都几	也頗，也还
的	些
唔	不
論尽	麻煩
㗎	表示説服語气。
都	还
咯	表示事情完全過去の語气。
冇	没有
乜	什麼 冇乜野——没有什么事

うえに示した対照表によっても分るとおり、「普通話」と広東語の語彙の差はかなりあるが、実際に学習するとき語音と比較すれば、かなり容易であるといえる。一例を紹介すると、ほかの省から広東省にきて20年以上も経た人の経験によると、語彙の面では広東人と変わらないが、語音では広東に生れ、育った少年に遠くおよばないといっているほどである。

最後に、語法についてふれてみよう。語法は語音、語彙と比較すればそのちがいはきわめて少い。普通話と異なる点をいくつかひろってみよう。

1. 二重目的動詞の場合、目的語の語順が倒置される。たとえば普通話の“給我錢”を“給錢我”という。
2. 二字の動詞の複合詞の肯定と否定の組合せによる疑問形の場合、最初の肯定形の二字目を省略させる。“喜欢不喜欢”を“喜唔喜欢”という形をとる。
3. 動詞の重疊形式の場合、“吓”を用いる。“試試”“試一試”を“試吓”とする。⁴⁴⁾

ことばには3つの要素（語音、語彙、語法）が存在するが、このうち、学習者にとりどれが一番むずかしいかとなれば、一様にはいいがたいが、ふつうの外国

語ならば、まず語法であろう。だが、「普通話」を知っている中国人が広東語を学習する場合、又はその逆の場合も難関は語音にあるといわれている。

香港にある2つの大学⁴⁾の講義、あるいは公開講演の場合、講師が「普通話」で講義をおこなったあとの受講者からの質問は、ほとんどといっていいくらい広東語でおこなわれる。耳からは理解できても、やはり実際に「普通話」を用いて話すことは困難なのであろう。

つぎに、話しことばでない書面語についてふれてみよう。

香港の新聞、雑誌はきわめて多い。新聞を例にとると、人口400万人余に対して正確な数字は分らないが、その数は60～70種におよぶといわれている。雑誌も同じようにその種類は非常に多い。これらの新聞、雑誌はすべてタテ組みであり、中国派とみられているものでも簡体字は使用していない。そのためヨコ組み、簡体字のものを読みなれた人にはすこしばかり重い感じがするかもしれないが、内容は「普通話」とほとんど変わらないので、むずかしいとはいえない。ときどき、社会面にカッコつきで方言を使用した文章にお目にかかることがある。一例をあげてみよう。

1972年8月1日付星島晩報の社会面のなかにつぎのような一節がある。『過劫地点は般含道六十四号A六楼、戸主姓陸、被劫時屋内有六名住客、包括一男二女及三名女童、全部均被「扮蟹」』（強盗にあった場所はボンナムロード64号A6、戸主は陸氏、犯行時同家には男子1名、女子2名、少女3名の6名がいたが、全員縛りあげられた）。この最後にある「扮蟹」を“カニの役を演ずる”と直訳したのでは何のことだか分らないが、これは「がんじがらめに縛り上げられた」ことを意味している。そのわけは、秋に出廻るカニはかごに入れられてくるが、逃げないように手足を体にピッタリつけワラでがっちり縛り上げてから店頭にきれいに積み上げられるのである。だから香港に住んでいる人びとには一目でその有様が彷彿とするわけで、これなど生活の中から生れた面白いことばといえよう。

映画の広告にはふつう上映開始時間が示されている。むかしから中国の映画館は一回ごとの入替え定員制で日本のようにいつでも入場できるものではない。上映開始時間を知らなければ時間をむだにしてしまうことになる。広告には「七点三」とか「七点五」とか出ている。「7時30分」、「7時50分」の省略形だと思ってその時間に行くと、もう始まっていて入場できないことになる。そのわけは「七点三」は7時3分でも7時30分でもなく7時15分であり、「七点五」は同じように、7時5分でも、7時50分でもなく、7時25分を意味している。「三」とか「五」の数字は時計の文字盤の数字を示しているのである。

つぎに街頭で見かける中国文について少し書いてみよう。ここ2、3年のうちにホンコンにもワンマンバスが登場した。ワンマンバスの前に大きくつぎのように掲示してある。

“乗客請自備角子，各自向箱内車費繳付”（乗客の皆さん10銭硬貨をご用意下さい。各自で箱のなかに乗車賃をお支払下さい）

また九龍のバスのなかに示されていた乗車規則の一部を紹介してみると

1. 不可企立於梯級及阻碍梯口。（出入口に立たないで下さい）
2. 不可将身体或手臂伸出窗外。（窓から身や手を出さないで下さい）
3. 不可将物件抛出车外不可吐痰。（痰物をなげたり、痰をはかないで下さい）
4. 禁止與司機談話否則觸犯交通條例。（運転手と話しをしないで下さい。守らない場合は交通規則に違反します）
5. 在此車内廂不准吸煙。（この車輛ではタバコはご遠慮下さい）

：

まへのワンマンバスの例およびあの普通バスの乗車規則とはほとんど普通話とっていいくらいで、とくに注釈をつけるとすれば乗車規則第一条の“企立（立つ）”ぐらいであろう。

つぎに、1972年春に行われた交通安全月間のときの標語をいくつかあげてみ

よう。

- (1)正確使用行車綫及過路處。 走行車線と横断歩道を正しく使おう。
- (2)想清楚，看清楚！ 才可轉變行車綫。 走行車線を変更するにはよく考え，よく見てから。
- (3)慢行車輛靠左行駛。 低速運転は左側。
- (4)穿插鑽前傷亡陷阱。 無理なわりこみ怪我のもと。
- (5)除爬頭外靠左行駛。 追越車以外左側進行。
- (6)勿強行切入別人之行車時。 無理な追越をするな。
- (7)睇清楚！ 冇車駛近才可過馬路。 よく見よう！ 車が来ないのを確認して渡ろう。
- (8)横過馬路要看清楚切勿越過巴士前後。 道路の横断はよくみてから。 バスの前後は通行禁止。

はじめの四つは別に問題がないがあとの四つには少し注釈が必要である。

- (5)の“爬頭”はトップにはいあがる，追越しのこと。(6)の中国文は英文の直訳といった感じがある。これはホンコンでなければ見られない中国文であろう。
- (7)の“睇”は「普通話」の“看”，“冇”は“没有”の意味で全くの広東字。(8)の“巴士”は別表のようにホンコン語であり，普通話ならば“公共汽車”である。

このように「普通話」として十分なもの，広東語をいくらか知らなければ理解できないもの，英語の影響をうけているものなど，いろいろあることがわかる。それらのなかで一番あざやかな「普通話」は九龍駅の掲示である。

“下班車开 時 分”（つぎの列車は 時 分出発します）

“下班車由羅湖開來上午（下午） 時 分”

（つぎの羅湖からの列車は午（前）後
時 分到着します）

普通話の将来

香港が中国の影響を直接・間接にうけるのは当然であり、それは政治・経済の面だけにとどまらず、言語にもおよんでいる。しかし香港の現在おかれている特殊な地位から、中国においてすすめられてきた「普通話」普及のような急速な変革は望めないが、だんだんと広がり、しみこんでいることは事実である。その理由としてつぎの点をあげることができよう。

1. 中国における「普通話」の普及 中国において「普通話」の普及運動がすすめられたことにより、中国の新しい息ぶきを摂取するために香港においてもその学習の機運が高まった。また、新聞、雑誌など各種出版物も「普通話」で書くものが非常に多くなってきている。

2. 中国との交流の増大 中国の社会主義建設が進み、政治的な影響が高まるとともに経済的交流が急激に増加した。中国との貿易は、解放後の数年のあいだは中国は香港からの輸入が多かったが、その後はその割合が逆転し、香港の中国からの輸入が激増している。このため、中国に対する深い認識が必要となってきた。

これまで香港で中国派とみられることはかなり勇気のいることであったが、現在ではどこの町にも国貨商店（中国商品を取扱う店）があり、九龍のメインストリートであるネイザンロードにも国貨デパートがいくつかあり、日用品——たとえば、牛乳、魚、肉など——まで取扱っている。さらに、九龍半島先端、九龍駅前的大ビル（星光行、英語名 Star House）のなかには中国工芸品展示・販売所が設けられ、また中国の現状を知らせる展覧会が常設されている。ここを訪れば、中国の実態を膚で感じとることができるが、以前では考えることすらできなかったことである。

3. 中英関係の変化 中国とイギリスとの関係はイギリスが1950年1月、成立間もない中華人民共和国を承認したことから新しくはじまった。1963年、こ

れまで高等教育はすべて英語で行なわれていた香港において、中国語によって講義が行われる中文大学（Chinese University of Hong Kong）の設立が認められたことは、両国の関係に新しい変化が生じたと考えていいのではなからうか。

4. 香港在住の中国人の意識変化 中国の社会主義建設が確実な成果をあげつつあることは、香港の中国人たちの民族意識を高める作用を果している。これまで一部には、英語を話すことができれば人間の格が一枚上であるというような考えがあったが、このような傾向も次第に変わり始めている。

香港の西に、香港と似た状況におかれたポルトガル領マカオがある。ここではすでに普通話が日常化している。まえにも書いたが世界の新興国においても自国の言葉をそれぞれの国語に定めている現在において、政治的に特殊な状態にあるとはいえ、香港もこの流れに抗することは不可能であろう。

注(1) 中国の少数民族は『新华字典』1971年修訂改版 新华书店刊、北京 pp. 590～593. によれば54をかぞえられるとし、その民族名と主要分布地区を表示している。人口は、全国総人口の6パーセントを占め、分布は総面積の50～60パーセントに及んでいる。なお各民族の人口数は、村松一弥『中国の少数民族』毎日新聞社、昭和48年6月、pp. 304～306. に表示されている。

(2) 方言の分類をより詳述するとつぎのとおりである。

i 官話系方言

イ. 北京語

ロ. 西北方言（山西・陝西・甘肅）

ハ. 東北・山東方言

ニ. 湖北方言

ホ. 下江官話（長江中下流）

ヘ. 西南官話（四川・雲南・貴州・広西）

ii 吳方言

イ. 蘇州・上海語

ロ. 浙江方言

ハ. 寧波方言

iii 閩方言

イ. 閩北方言（温州）

- ロ. 閩東方言（福州）
- ハ. 閩南方言（厦門）
- ニ. 潮州方言
- iv 粵方言
 - イ. 広州語
 - ロ. 東江方言
 - ハ. 西江方言
- v 客方言
 - イ. 梅県客家
 - ロ. 江西客家
 - ハ. 皖南方言
- vi 湘方言

中国語学研究会編『中国語学新辞典』光生館 昭和45年5月. p. 158.

- (3) 前掲『中国語学新辞典』p. 176.
- (4) 程养之編『普通話异読詞审音检字』文字改革社 北京 1965年1月 p. 4.
- (5) ここではかりに「中国系住民」ということばを使用した。たとえばシンガポール、マレーシアにおいてはシンガポール人であり、マレーシア人であることはいうまでもない。それぞれの国の国籍をもつ中国系の人である。それらの人たちは自分たちを「華人」とよび、ひとにもそうよんで欲しいと希望している。それゆえ、ことばも「華語」となる。
- (6) Malaysia Yearbook 1971. pp. 15~17.
- (7) 東南アジア調査会『東南アジア要覧』1972年版 昭和47年5月. 7—24.
- (8) 前掲書 6—50.
- (9) 前掲書 8—43.
- (10) アジア経済研究所『インドネシアの統計』昭和36年1月, 原典 SAN DE GRAAFE “DE STATISTIEK IM INDOEESIË” 1955.
- (11) 前掲『東南アジア要覧』5—34.
- (12) HONG KONG —Report for the year—1971 HONG KONG GOVERNMENT PRESS 1972 p. 213.

なお香港に住む中国人に区別があるのでふれておかねばならない。ここに住む中国人で香港がイギリス領であるため英国籍を希望する者は「英籍華人」への手続きをとらなければならない。承認をえた者は「英籍華人」となる。英国籍をもっている者と区別されるので、香港において英国人がもつ特権は当然のことながら享受できない。この人たちを「香港人」とよび、それ以外の人を「中国人」と分ける人もいる。

(13) 普通話において外来語をそのまま音訳語として用いている例として「吉普 jípu」

(ジープ), 「坦克 tǎnkè」(タンク)などをあげることができるが, その数はきわめて少く, 現在ではこの二つの単語も「吉普車」「坦克車」が用いられている。また, 当初音訳語が用いられ, その後意訳語になった例は「盤尼西林 pánixī lín」(ペニシリン)が「青霉素 qīngméisù」へ, 「芭蕾舞 bāléi」又は「芭蕾舞—wǔ」が「舞剧—wǔjù」へ変わった。

(14) 王力『広州話浅説』文字改革出版社 1957年3月 pp. 39~86.

(15) 王力『広東人怎樣學習普通話』文化教育出版社, 1956年3月第二版第二次, p. 163.
ここで韻頭について説明しよう。ふつう字は声母と韻母の二つの部分からなりたっている。

	声母	韻母
米 mi	m	i
够 gou	g	ou
漢 han	h	an
良 liang	l	iang
專 zhuan	zh	uan
宣 xuan	x	uan

うえにあげた韻母は韻頭, 韻腹, 韻尾に分れる。すべての字は韻腹をもち, うえから, i, o, a, a, a, a がそれに相当する。韻腹のあとにあるものは韻尾であり, 「米」の字は韻尾はもたないが, 以下 u, n, ng, n, n がそれにあたる。韻腹のまえにあるものが韻頭である。「米」, 「够」, 「漢」には韻頭はないが, 「良」は i, 「專」は u, 「宣」は u (本来は ü) の韻頭をもつ。すなわち, “i, u, ü” は韻頭となる資格をもっている。そのため, “香港” は普通話では [Xianggang] であるが, 広東音では [Heonggong] と “i” が “e” になっている。

(16) 喬硯農『広東話口語詞的研究』華僑語文出版社 香港 1966年 p. 14.

(17) 1911年創立の University of Hong Kong (香港大学) と1963年に崇喜, 連合, 新亜の三つの学院が合同して Chinese University of Hong Kong (中文大学) が認可され, 1973年までに新界地区に新校舎を設立, 合同することになっている。

(18) 厳密に言えば, ほかにいくつかあげることができる。たとえば「手臂」も広東語彙といえよう。